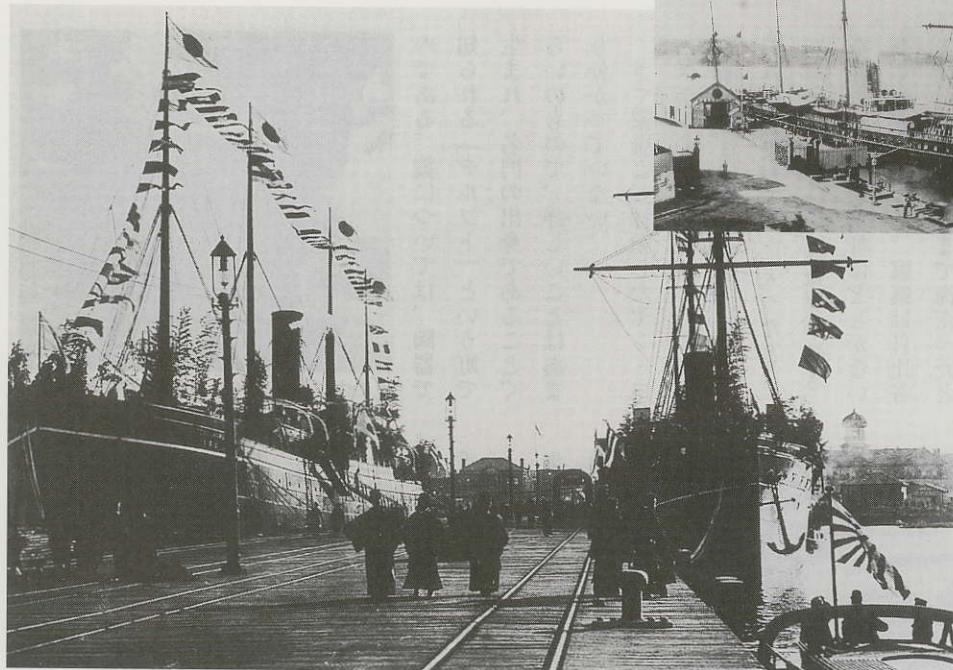


威海丸

《主要目》貨客船、日本郵船所属、鉄製、3,076総トン、主機二連成汽機1基、速力12ノット、船客定員（竣工時）一等130名・二等49名、1872年英ウィリアム・デニー&ブラザーズ社建造、前名キャセイCathay

欧洲航路の開航祝賀セレモニーに 参加した無名の汽船



▲キャセイ時代の威海丸
横浜港大桟橋で行われた欧洲航路開航披露

「土佐丸」の隣の汽船は？

上に掲げた二隻の汽船が写っている古写真に見覚えがあるだろうか。

日本郵船の欧洲航路開航披露の情景で、一

八九六（明治二十九）年三月に横浜港大桟橋

（おおさんばし）で撮られたものだ。

二隻は大桟橋に着岸しており、洋風の満船飾と伝統的な竹飾りで、開航祝賀のふんいきを盛り上げている。江戸時代の「新綿番船」などにみられる竹飾りの慣習がこのころまで、まだ残っていたのである。

左側の四本マストの大型船は、欧洲航路第一船となつた有名な「土佐丸」である。

いっぽう右側の三本マストの船は、記録が残つていなし、船名も不明だが、メーンマストに二引（にびき）の社旗をあげており、やはり郵船の船であることがわかる。だが、船名表示までは読めない。

「この無名船を特定できないだろうか」

かねてから気とにめていたところ、十数年まえ、同じ場面を描いた油絵が、郵船本社調査室の文書庫で眠っていたのを発見され、船名を推定できるようになつた。

油絵の作者は、明治の写実画家として知られる五姓田義松（ごせだよしまつ）。この有名な情景を、大桟橋の陸寄りから五姓田特有の

リアルなタッチで描いている。船名までは描き込んでいないが、外観は元P&O汽船の「威海丸」（いかいまる）に似ていた。

開航祝賀セレモニー

後日、これを裏づける朗報が横浜マリタイムミュージアムの志澤政勝氏から届いた。開航祝賀セレモニーを報じた三月十日付『毎日新聞』の記事に、この船の名前が出ていたのだ。やはり「威海丸」だった。

「同船（土佐丸）は横浜税関波止場の先き右方に繋がれ（古写真は海側からの撮影なので左右が反対）、之に対し左方には威海丸の繋がれたり。両船には満船国旗の粧飾を以て掩はるる外に、錠椿を以て其周囲を装ひ、中には棕梠其他種々の盆栽を隙間なく置きて粧飾と為し、各船の舳艤（船首と船尾）に階段を設けて来賓の昇降に供せり」

大桟橋での開航祝賀セレモニーは、三月八日の午後二時すぎに始まつた。「土佐丸」の船上で海軍軍樂隊が音楽を奏で、「威海丸」から祝賀の花火が打ち上げられた。

やがて合図の号鐘が鳴り、船上にあつた来賓者らが大桟橋に下りた。「威海丸」の舷門に立つた近藤廉平社長の演説がこれに続く。歐州航路を開航するまでの経緯、「土佐丸」の来歴、そんな内容だった。

そのあと、祝賀パーティーが両船の一等ダイニングルームで行われた。散会は夕方四五時だったという。「土佐丸」は、その一週間後の三月十五日に横浜を出航した。

横浜港大桟橋の原型

横浜港大桟橋は、英国人技師パーマーのプランによる築港第一期工事で建設された。全長約六百メートル。鉄製で、鉄材は英國から輸入された。当時は「鉄桟橋」といった。

完成したのは一八九四（明治二十七）年三月（第一期工事の終了はその二年後）。「土佐丸」出帆の二年まえである。これがいまの大桟橋の原型となつた。

ところが、司馬遼太郎氏の『街道をゆく』（横浜散歩）にこんな一文がある。

「第一期工事は明治二十九年に完工したが、しかしできたのは主として風浪をふせぐ防波堤と桟橋、それとの連絡鉄道ぐらいで、依然として大波止場はできず、大きな船は依然として波の大きい沖で碇泊するしまつだつた」これを素直に読むと、当時日本最大の「土佐丸」（五千八百総トン）は沖がかりになつてしまふ。桟橋に大型船は横づけできない、とう思いこみがあつたのだろう。

大作家の文章である。大正の初めに新港埠頭ができるまで大型船は沖がかりだつた、と

イニシャルームで行われた。散会は夕方四五時だったという。「土佐丸」は、その一週間後の三月十五日に横浜を出航した。

前述のように元英國P&Oの汽船である。英國→インド航路の定期船「キヤセイ」（初代）として、一八七二（明治五）年に英國クライド川のダンバートンで誕生した。スエズ運河が開通した三年後だつた。

日清戦争の勃発後、郵船はこれをチャーチーし上海航路に投入した。「西京丸」などが従用されたためだが、結局は購入して「威海丸」と名づけた。船名は、清国の海軍基地があつた威海衛からとられた。

日清戦争中は大連湾に出撃したが、戦後はめざましい記事はない。すでに船齡二十年を超える老朽船だつたからだろう。

郵船フリートにあつたのは七年ほど。一九〇二（明治三十五）年には個人船主に売却され、翌年、焼尻島で座礁し全損となつた。

このように日本船時代の船歴はいたつて貧相なもの。歐州航路の開航セレモニーに参加していなかつたら、日本の海運史に「威海丸」の名は残らなかつただろう。

ちなみに戦後、日本→豪州航路を走つていった「キヤセイ」は三代目である。

山田 遼生